

中学校英語科

学びの系統性と連続性を意識した授業づくり

～学習内容の系統性を踏まえ、連続性を生み出す指導の充実に向けて～

1. 学びの系統性と連続性を意識した中学校英語科の授業づくり

外国語教育では、言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を、学校段階を通して段階的に育成することが求められています。そのためには、小・中・高等学校における目標の共通点や相違点を理解し、学習内容の系統性を踏まえた上で、学びの連続性を生み出す指導を意識することが大切です。中学校英語科においては、小学校外国語活動・外国語科での音声中心の学習を基盤とし、高等学校卒業時に求められる論理的に伝え合う資質・能力の育成にも留意しながら授業づくりを行いましょう。

「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表

系統性

目標や学習内容のつながり、高度化

EXAMPLE 言語活動で取り扱う話題

小6	中1	中3	高1
身近な事柄 「好きな教科」	日常的な話題 「趣味」	社会的な話題 「尊敬する偉人」	社会や世界との 関わりのある話題 「環境問題」

連続性

既習事項の活用、次の学習への発展

EXAMPLE 学習内容を関連付けている生徒の姿



2. 学習内容※の系統性を踏まえ、学びの連続性を生み出す指導の充実に向けて

※学習内容…言語材料と言語活動

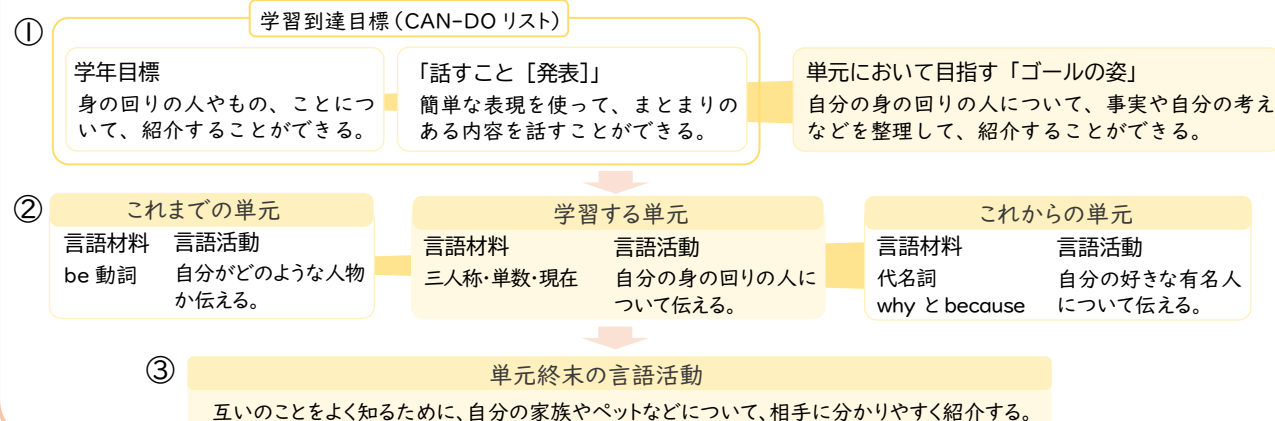
Point 1

学習到達目標(CAN-DO リスト)を基に、学習内容の系統性を踏まえた言語活動を設定する。

- ① 学習到達目標(CAN-DO リスト)を基に、学年及び領域の目標で示されている育成を目指す資質・能力を確認し、単元において目指す「ゴールの姿」を明確にする。
- ② 学習する単元とその前後の単元における学習内容のつながりを確認し、学習する単元で取り扱う学習内容の位置付けを明確にする。
- ③ ①で設定した「ゴールの姿」と②で整理した学習内容を踏まえ、単元終末の言語活動を具体的に設定する。

EXAMPLE

中1 自分の身の周りの人を紹介する 「話すこと[発表]」



Point 2

これまでに学習した語句や基本的な表現などを、意味のある文脈の中で、想起しながら繰り返し活用したり、それらを基に自らの表現を発展させたりする場面を設定する。

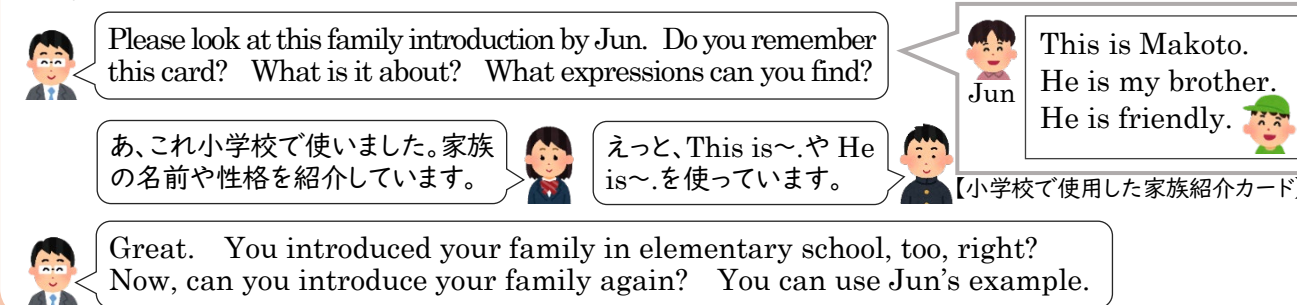
言語活動 互いのことをよく知るために、自分の家族やペットなどについて、相手に分かりやすく紹介する。

◆ 想起を促す手立て

EXAMPLE

これまでに使用した教材の活用

○ 導入場面



その他の手立て例 …

既習表現を活用する small talk の設定

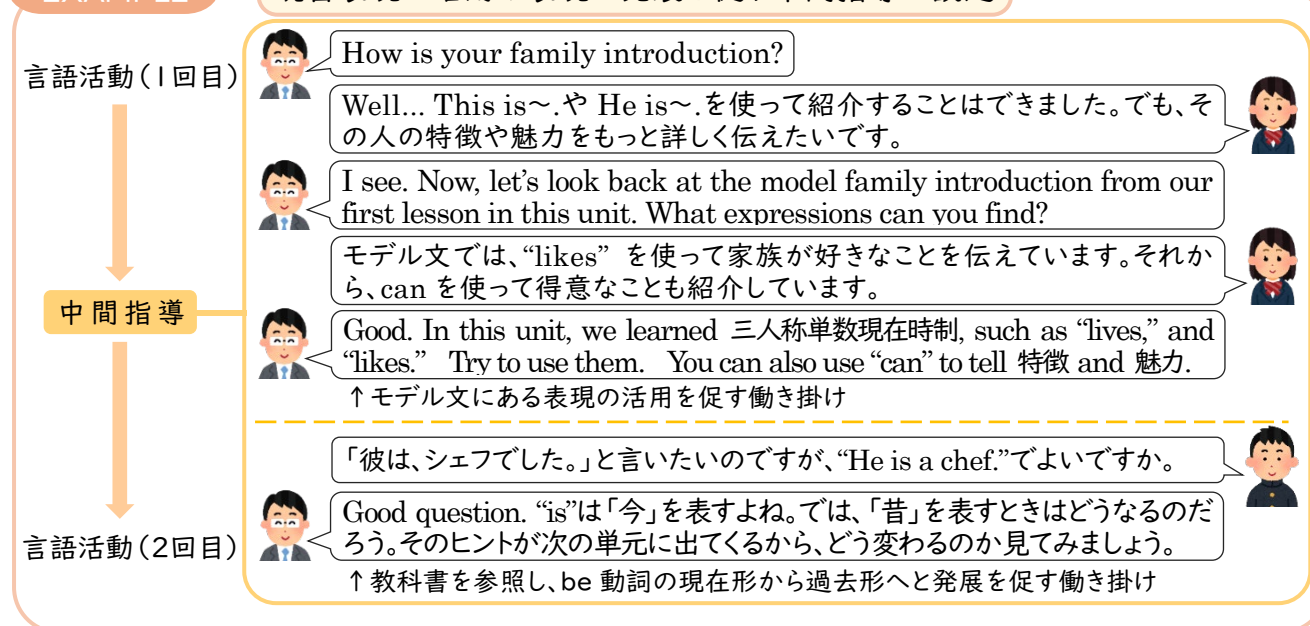
これまでに自分が書いた英文を読み返す場面の設定

これまでに録画したパフォーマンスの動画を視聴する場面の設定

◆ 活用や発展を促す手立て

EXAMPLE

既習表現の活用や表現の発展を促す中間指導の設定



その他の手立て例 …

既習・未習の word list や表現集の活用

発展的な表現を用いた発話や記述の共有

教科書本文の内容を自分の言葉で再構成する活動の設定

既習表現を活用する単元末の発展的な活動の設定

Point 3

言語活動を振り返り、次の学習につなげるための振り返りの視点を示す。

◆ 振り返りの視点

EXAMPLE

教師と生徒の対話や生徒同士の対話、ワークシートを活用した振り返り

- ・これまでに学習した語句や基本的な表現の中で、今日はどのようなものを使うことができましたか。
- ・目標を達成するために、新たにどのようなことができるようになりましたか。
- ・今日の学習を生かして、今後はどのようなことができるようになりますか。